

# ネイチャーウォッチングだより

令和6年 10月1日(火)

愛知教育文化振興会

協力:岡崎女子大学・短期大学

9月29日(日)、A日程第2回のネイチャーウォッチング「干潟の鳥ウォッチング」を開催しました。会場は田原市緑が浜公園前の海岸で、目の前には三河湾の最も奥に位置する汐川干潟が広がっています。不安定な天候が続き、当日の天気も心配されましたが、幸い雨に降られることもなく24組80名の親子の皆さんが、バードウォッチングと干潟の生き物観察を楽しみました。

今回の講師、日本野鳥の会会員の宇都宮森和先生は「汐川干潟は小学校30校分以上の広さがあります。昔は今の8倍くらいあったのですよ」と話されました。そして、海の埋め立てが進められてきたことや、残った干潟を人々が守ってきた歴史にも触られました。

続いて、子どもたちに写真を使った野鳥クイズを出題されました。オスとメスで姿が違う野鳥は多くの子が正解し、「オスの方がきれいだから」と理由を答える子も。幼鳥と成鳥で姿が変わる野鳥、夏と冬で姿が変わる野鳥のクイズには、たった一人が正解し、参加者から感嘆の声が上がりました。



参加親子全員集合！

野鳥観察が始まると、「白い鳥がたくさんいる！」「あれはサギだね」「黒いのはカワウかなあ」など、双眼鏡で見た野鳥を写真と見比べながら確認しました。フィールドスコープ(地上望遠鏡)で、竹の棒の先にとまった鷹の仲間であるミサゴやトビ、水に浮かんだオナガガモの群れなどを見ることができました。

その後、干潟にすむ生き物を観察しました。ここでのミッションは、汐川干潟で見られる代表的な12種類の生き物を見つけることです。「カニを捕まえたよ！」「この貝は何ていう貝？」「イソギンチャクってこんなに小さいんだ」。砂を掘ったり石をひっくり返し



親子での野鳥観察

たりしながら、親子で次々に見つけ、中には12種類を全て見つけた親子もいました。今回の活動を通して、干潟の自然の豊かさや生き物の関わりを実感できたようです。参加者アンケートから一部を紹介します。

干潟に足を踏み入れたのは初めてで、とても思い出深い経験になりました。チゴガニがかわいかったです。(母)

見つけようカードがあったので楽しく探せました。他の方に見つけた物を見せてもらい共有できてうれしかったです。(子)



干潟には生き物があるかな？

自分たちでは普段やろうと思いつかない自然体験ができてよかった。専門家の解説も聞けてよかった。活動時間が長く、時間に余裕があってよかった。(親)

鳥がいっぱい見れて、知らない鳥を知ることができてよかった。(子)

クイズにたくさん正解できて、鳥博士と先生に言ってもらえてうれしかったです。(子)

かいを見つけることができてよかった(子)

シールなどを使って、楽しくできてよかった。(母)

生き物の多様性を感じることができました。(父)